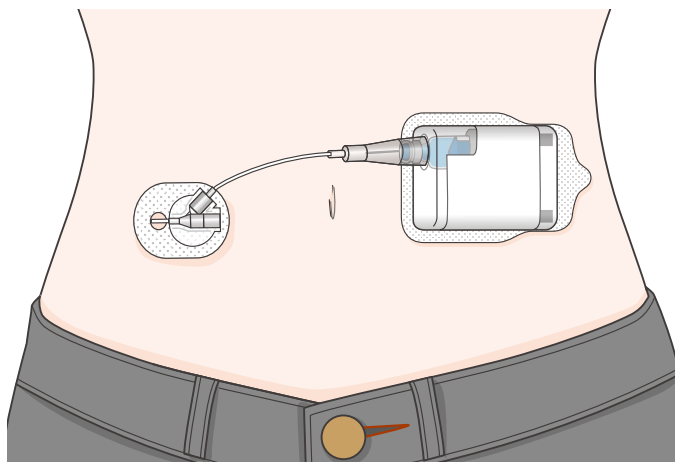


# ジーラスタ<sup>®</sup>皮下注3.6mg ボディーポッド

## 取扱説明書

監修 鶴谷 純司 先生 昭和大学先端がん治療研究所 所長/教授



薬剤に関する情報は、医薬品の電子添文を必ずご確認ください。

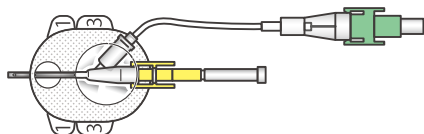
本取扱説明書をいつでも参照できるような場所に保管し、ご使用前に必ずよくお読みの上、記述されている説明に従って使用してください。

# 目次

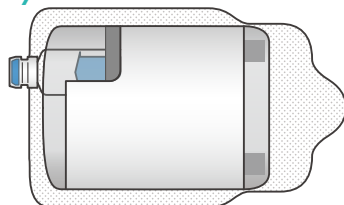
■ 自動投与デバイスの名称	3
■ 自動投与デバイスの注意事項	6
注意文の表示内容について	6
注意事項「絶対に行ってはいけないこと」	7
■ 使用方法	8
■ 自動投与デバイスの装着(医療機関)	8
準備	8
穿刺部位の選択	11
穿刺部の留置	13
穿刺部の固定	15
本体の電源起動及び本体の装着	18
■ 装着後のデバイスの表示	22
表示ランプとデバイスの状態	22
■ 薬液自動投与と投与終了後のデバイス取り外し(患者さん)	24
患者さんに対する指導事項	24
投与中のデバイスの状態	30
クイックガイド	31
ステップ1:待機時	32
ステップ2:薬液投与開始	33
ステップ3:薬液投与終了	34
ステップ4:デバイスの取り外し	35
ステップ5:返却	39

# 自動投与デバイスの名称

〈穿刺部〉



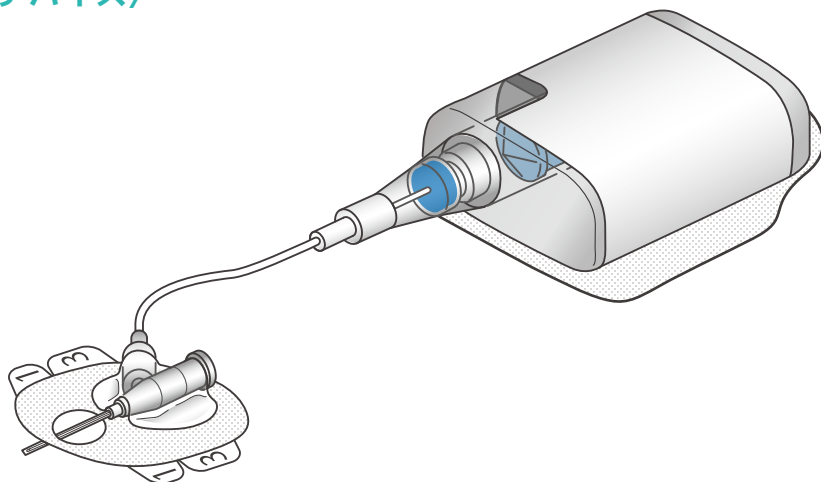
〈本体※〉



※：本体には、医薬品を充填したカートリッジがセットされています。  
取り外すことはできません。



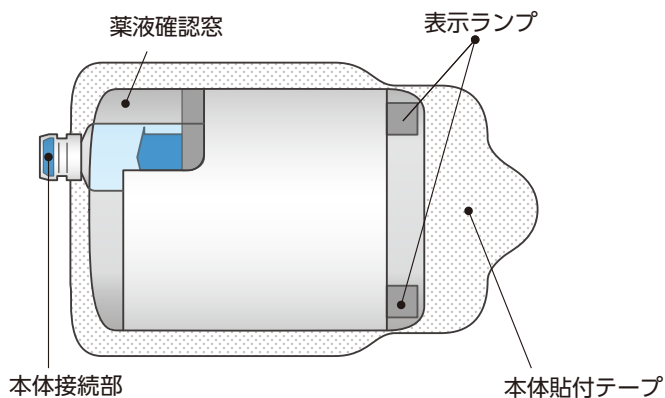
〈デバイス〉



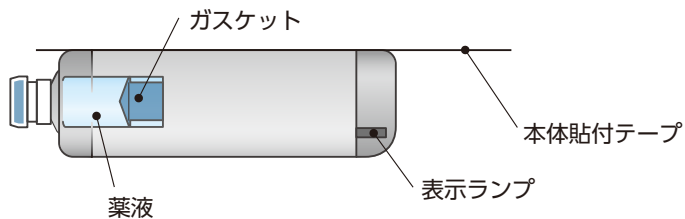
# 自動投与デバイスの名称

## 〈本体〉

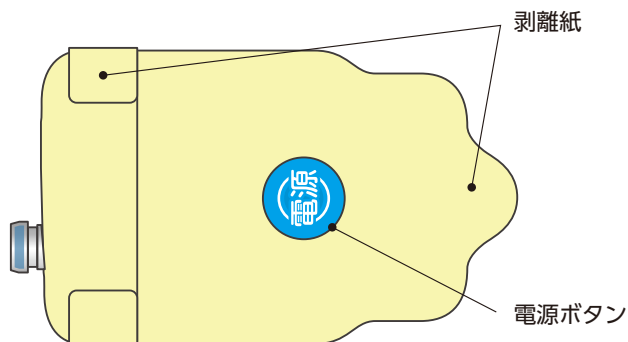
正面



側面

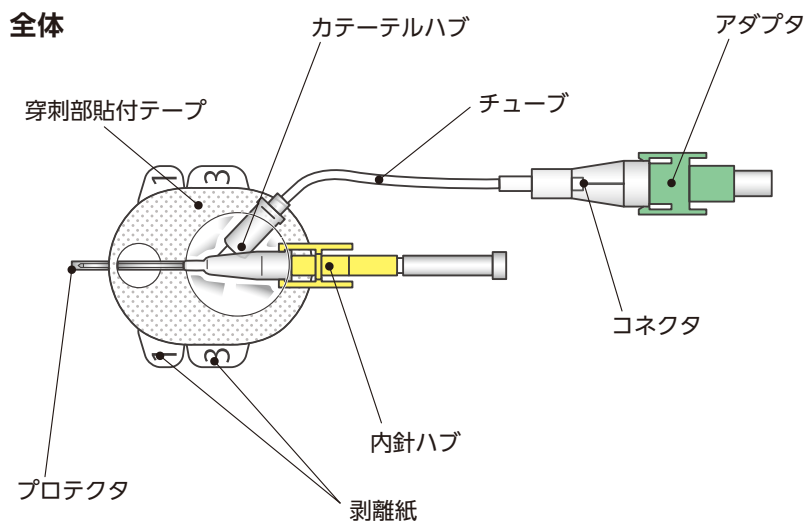


裏面

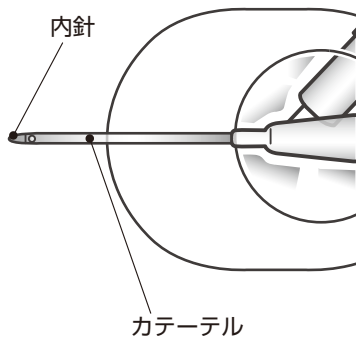


## 〈穿刺部〉

全体



プロテクタ取り外し後



# 自動投与デバイスの注意事項

安全に、正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、記述されている説明に従ってご使用ください。

また、この取扱説明書を、いつでも参照できるように保管してください。

なお、患者さんに対する指導事項はP.24～P.29に記載されています。**必ず指導してください。**

## 注意文の表示内容について

本書では、表示内容に従わず、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。**必ずお守りください。**

### 絶対に行ってはいけないこと

- 本製品の性能を超える、又は不適切な使い方により、死亡又は重傷を負う危険性があります。

### 一般的な注意

- 誤って使うと、人が危害を負う可能性、又は物的損害\*の発生が想定されます。

※物的損害とは、家屋、家財、及び家畜、ペットなどに関わる拡大損害を示します。

包装に記載されている記号一覧

	BF形装着部（電撃に対する保護の程度による装着部の分類）		再使用禁止
IPX2	電気機械器具の外郭による保護等級（IPコード）		パッケージが破損している場合は、使用しないでください

## 注意事項「絶対に行ってはいけないこと」

### 絶対に行ってはいけないこと

#### <使用方法>

- デバイスに強い衝撃を与えたり、圧力をかけたりしないでください。デバイスは精密機器のため、外見に異常が認められなくても内部が破損しているおそれがあります。
- 本薬剤を皮下に投与する際、必ず付属の穿刺部を使用し、ほかの医療機器は使用しないでください。
- デバイスを分解したり改造したりしないでください。[デバイスの故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性があります。]
- デバイスは、再使用・再滅菌しないでください。

#### <磁場、放射線環境での使用>

- デバイスを装着中は以下の医療機器は使用しないでください。ただし、デバイスの使用より以下の医療機器の使用が優先される場合には、デバイスを取り外してください。やむを得ず、デバイスを取り付けたまま以下の医療機器を使用した場合には、医療機関へ直ちにご連絡ください。[デバイスは磁場や放射線、高電圧の影響を受ける環境での使用を想定していないため、本体の誤作動や故障の原因となる可能性があります。]
  - ◆ X線撮影装置、CTスキャナー、放射線治療（X線・重粒子線治療法・中粒子線治療法などを含む）、AED、MRI装置、磁気治療器、マイクロ波治療器などの医療機器
- デバイスをボディスキャナー、X線によるセキュリティー検査に通さないでください。[本体の誤作動や故障の原因となる可能性があります。]
- 変電設備に近づいたり、永久磁石に本体を近づけないでください [強い磁界下では本体内のモータの動きが妨害されるおそれがあります。]

#### <使用期限>

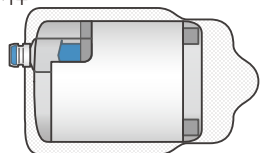
- 使用期限が過ぎたものを使用しないでください。

# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

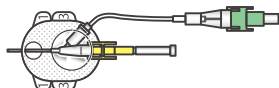
## 準備

### デバイス

#### • 本体



#### • 穿刺部



- ① 使用する30分前にデバイスを冷蔵庫から取り出す。

### 一般的な注意

- デバイスは外箱に入れたまま2～8℃で保管し、光や衝撃を与えたり、圧力をかけたりしないように注意してください。
- 極端な高温・低温環境で使用すると、デバイスが破損したり薬液が劣化又は変性して安全性及び有効性に影響が出るおそれがあります。以下の点にご注意ください。
  - ◆ 外気温5～40℃の環境で使用してください。
  - ◆ 薬液を凍らせないようにしてください。
- お湯や電子レンジなど外部の熱源を使って、デバイスを温めないようにしてください。本体の誤作動や故障の原因となる可能性があります。また、薬液が劣化又は変性するおそれがあります。

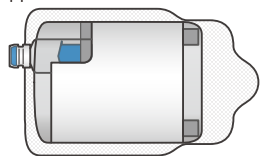


## ご準備いただくもの

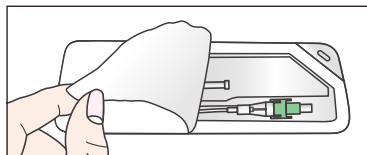
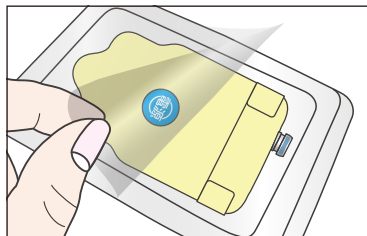
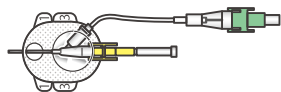
- デバイス
- 取扱説明書（本書）
- その他
  - ・アルコール綿
  - ・滅菌済み生理食塩液（1～5mL程度が入った）2.5mL、5mLもしくは10mLシリンジ
  - ・時計（デバイスの電源ボタンを押した日時を記録するのに使用）
  - ・返却用袋（患者さんが取り外したデバイスを医療機関に返却する際に使用）

## デバイス

- ・本体



- ・穿刺部



## ② デバイスの投与に必要なものを用意する。

## 絶対に行ってはいけないこと

- ・使用期限が過ぎたものを使用しないでください。

## 一般的な注意

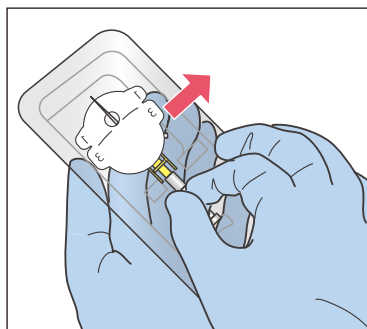
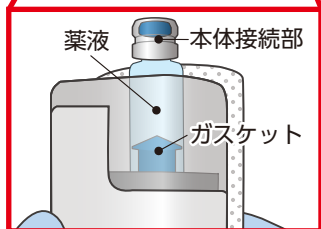
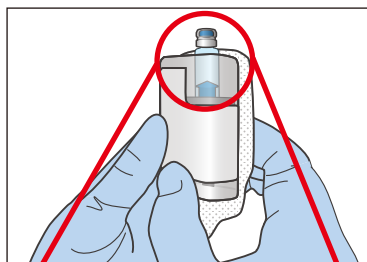
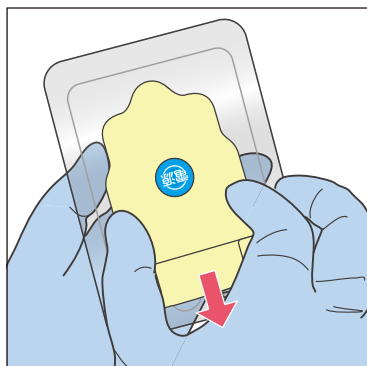
- ・デバイスの薬液及び穿刺部は滅菌された状態で包装されています。本体や穿刺部の包装が破損している場合は使用しないでください。本体や穿刺部の包装が破損すると滅菌性が損なわれるおそれがあります。
- ・デバイス洗浄用の生理食塩液は容量2.5mL、5mLもしくは10mLのシリンジにてご準備ください。2.5mLより低容量のシリンジを用いて生理食塩液で洗浄された場合、穿刺部コネクタに内蔵したスリット弁が開いたままとなり、薬液投与開始前までに薬液が穿刺部内を拡散し皮下に流入するおそれがあります。

## ③ デバイスの箱を開け、中身を取り出し、包装を開ける。

## ④ 手袋を着用する。

# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

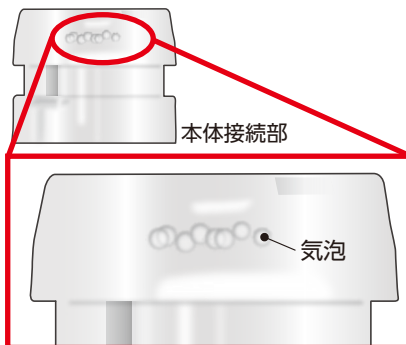
## 準備



- ⑤ 本体を包装から取り出し、薬液の性状を確認する。

### 一般的な注意

- デバイスの装着は、がん化学療法剤投与終了後に実施してください。
- 電源起動前に、既に、表示ランプが点灯・点滅している場合は、新しい本体及び穿刺部に交換してください。
- 使用前に薬液が透明で無色であり、異物がないことを薬液確認窓から確認してください。異常が認められる場合には使用しないでください。
- ご使用の直前まで電源ボタンを押さないでください。
- 本体接続部の内部に気泡が見られることがありますが、品質には問題ありません。

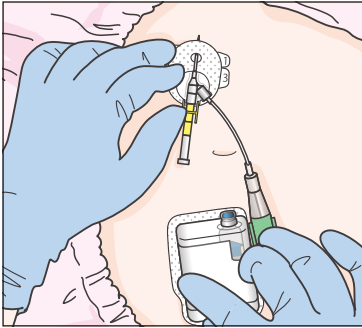


- ⑥ 穿刺部を包装から取り出す。

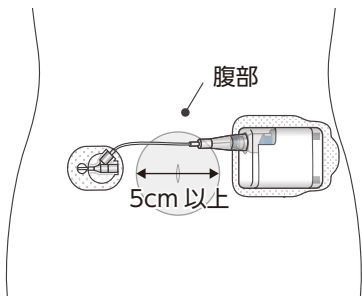
### 一般的な注意

- 穿刺部に破損やひびが見られる場合は使用しないでください。
- 穿刺前に内針ハブを前後させる、曲げる、回転させるなどの操作は行わないでください。針先が露出し針刺しの可能性があります。また、カテーテルが損傷し、破断する可能性があります。

## 穿刺部位の選択



### 装着推奨例



- ① 患者さんの腹部を出し、おおよその穿刺部位と本体の装着部位を決める。この時、剥離紙はまだはがさない。

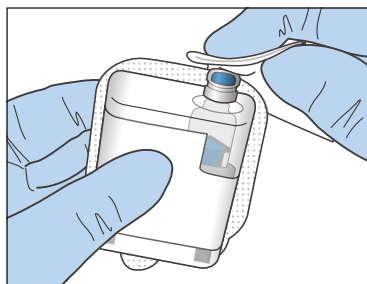
### 一般的な注意

- 穿刺する際は、清潔な環境で行ってください。
- デバイスを皮下に留置する際には**腹部以外**に穿刺しないでください。ただし、へその周り5cm以内への穿刺を避けて下さい。
- 着衣やベルトなどが当たる部分、または運動による激しい動きや屈伸によって刺激を受ける場所、**体側面や肋骨の上、凹凸のある部位などへのデバイスの穿刺あるいは装着は避けてください。カテーテルの折れ曲がりによる詰まりやカテーテルの抜け、貼付テープのはがれによるデバイス脱落の可能性**があります。
- 皮膚の損傷、発疹や皮膚炎などが認められる部位にはデバイスを装着しないでください。
- 軟膏やクリームなどを塗布した皮膚にデバイスを装着しないでください。貼付テープの粘着力が低下し、デバイスが脱落するおそれがあります。
- 体毛が多い部位にデバイスを装着しないでください。

※デバイスを留置する際は患者さんを仰臥位の状態にして行うことをお奨めします。

# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

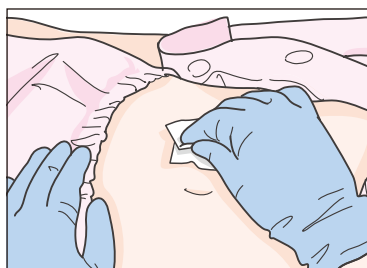
## 穿刺部位の選択



② 本体接続部をアルコール綿で消毒する。

### 一般的な注意

- 本体の接続部は消毒した後に触れないでください。

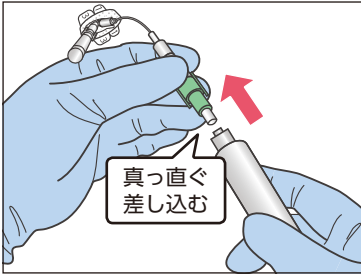


③ 穿刺部位と本体装着部位周辺をアルコール綿で消毒し、皮膚を乾かす。

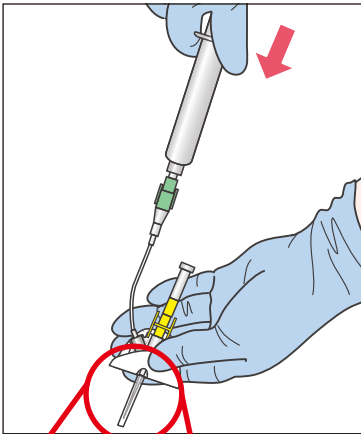
### 一般的な注意

- 穿刺前に穿刺部位と本体装着部位の皮膚の汚れや脂分、汗や水分などをアルコール綿などで丁寧にふき取ってください。皮膚の汚れや脂分、汗や水分などが残っていると貼り付く強さが弱くなり、はがれやすくなります。
- 穿刺するまで消毒部位に触れないでください。

## 穿刺部の留置



- ① 針のプロテクタはつけたまま、生理食塩液が入ったシリンジと接続する。

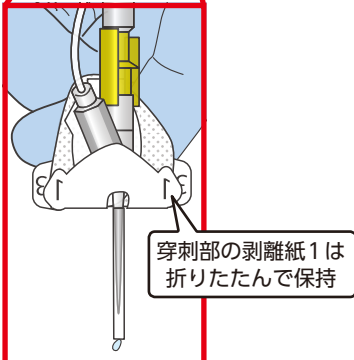


- ② 針のプロテクタはつけたまま、内針の先まで生理食塩液で満たし、プライミングを行う。

- 針先から生理食塩液が出ることを確認してください。

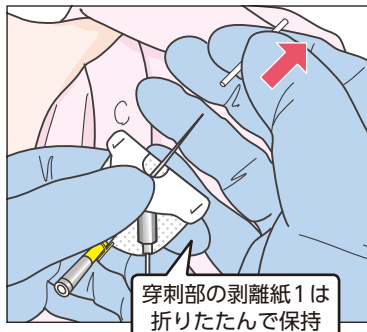
### 一般的な注意

- 穿刺前に、必ず穿刺部内に生理食塩液をプライミングしてください。プライミングの際は、生理食塩液をゆっくり押し込むようにしてください。生理食塩液を急激に押し込むと、穿刺部コネクタに内蔵したスリット弁が開いたままとなり、薬液投与開始前までに薬液が穿刺部内を拡散し皮下に流入するおそれがあります。



# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

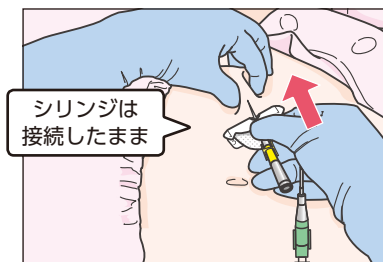
## 穿刺部の留置



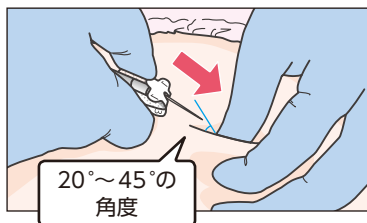
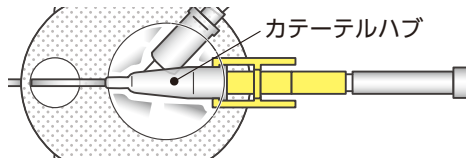
### ③ 穿刺部のプロテクタを取り外す。

#### 一般的な注意

- プロテクタを外す時は、針先を傷つけないように注意してください。また、針先に曲がりや折れ、破損がないことを確認ください。
- 内針には直接手を触れないでください。針刺し、感染の可能性があります。



### ④ 内針の刃面が上向きになるようカテーテルハブを上にして穿刺部を保持し、穿刺部位の皮膚をつまみ20°~45°の角度で穿刺する。



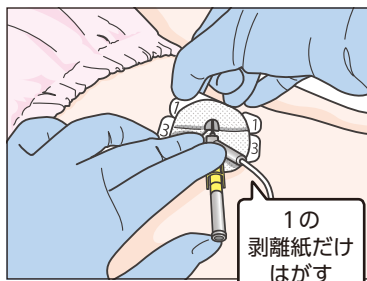
### ⑤ カテーテルの根元が皮膚に接触するまで穿刺を進める。

### ⑥ 穿刺後、カテーテルハブへ血液が流入していないことを確認する。

#### 一般的な注意

- カテーテルハブへ血液が流入している場合、薬液が皮下以外に投与されるおそれがあります。逆血が確認された場合、穿刺部を取り外し、新しい本体と穿刺部に交換してください。また、カテーテル内が閉塞し、薬液が投与されないおそれがあります。

## 穿刺部の固定



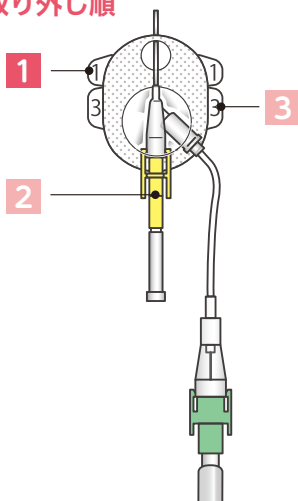
① 穿刺部の1の剥離紙をはがし、皮膚にしっかり貼り付ける。

- 貼付テープに浮き、しわが入らないようしっかり貼り付けてください。

### 一般的な注意

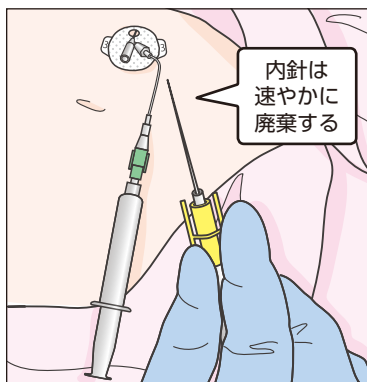
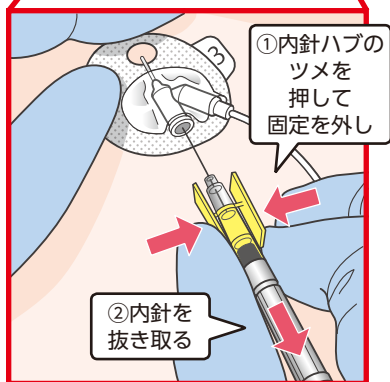
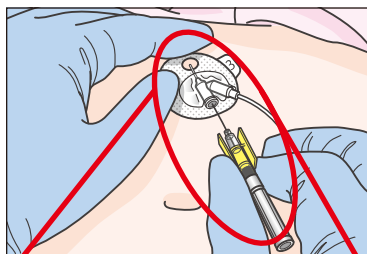
- 貼付テープを引っ張って伸ばした状態で貼付すると皮膚障害やはがれの原因となるため注意してください。
- 内針を引き抜く前に、必ず針側の貼付テープで皮膚に固定してください。内針を先に引き抜くとカテーテルの刺入位置がずれるおそれがあります。

### 取り外し順

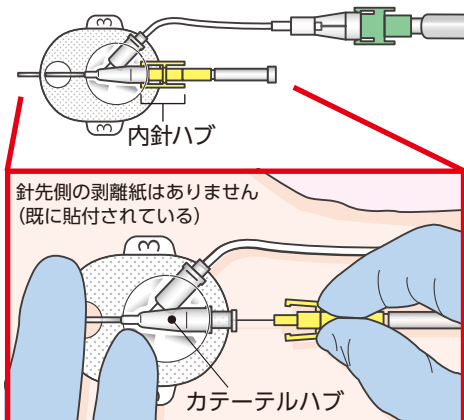


# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

## 穿刺部の固定



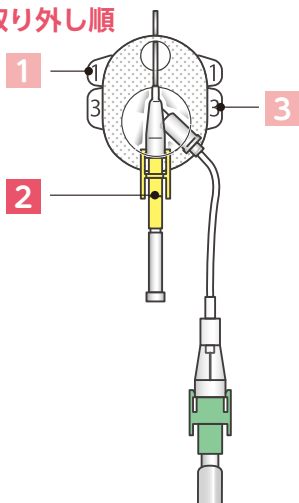
② カテーテルハブを押さえながら内針を抜き、速やかに安全に内針を廃棄する。



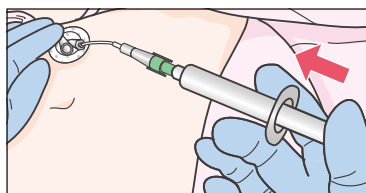
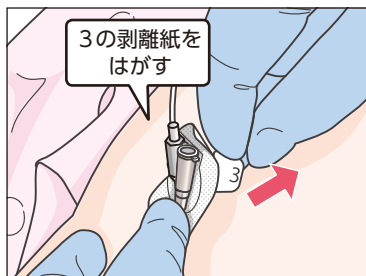
## 一般的な注意

- 内針をカテーテルに再挿入しないでください。再挿入によりカテーテルが破損し、適切な薬液量を投与できなくなる可能性があります。
- 使用後の内針は速やかに安全な方法で廃棄してください。

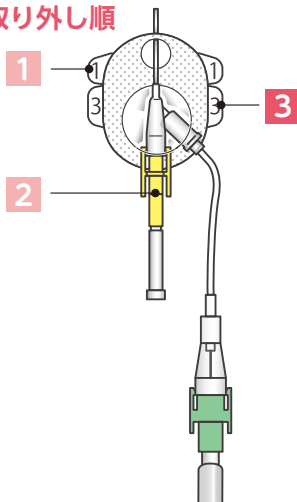
## 取り外し順







### 取り外し順



### ③ 穿刺部の3の剥離紙をはがし、皮膚にしっかり貼り付ける。

- 貼付テープに浮き、しわが入らないようしっかり貼り付けてください。

#### 一般的な注意

- 穿刺部の3の剥離紙は、**内針を引き抜いた後**にはがすようにしてください。内針を穿刺したまま後側剥離紙をはがそうとすると、内針が折れ曲がるおそれがあります。
- 貼付テープを引っ張って伸ばした状態で貼付すると皮膚障害やはがれの原因となるため注意してください。
- 貼付テープの粘着力が弱くはがれた場合、または、カテーテルが抜けた場合は、再貼付あるいは再穿刺せず新しい本体と穿刺部に交換してください。

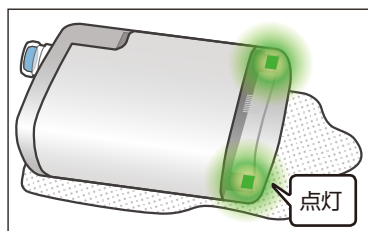
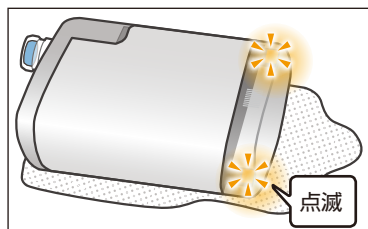
### ④ 約0.5mLの生理食塩液でカテーテル内を洗浄する。

#### 一般的な注意

- **内針を抜去し穿刺部の固定が完了した後**に、生理食塩液で穿刺部内を洗浄してください。このとき、穿刺部のチューブを過度に引っ張らないでください。内針の抜去により穿刺部内に血液が流入する場合があります。
- 生理食塩液による洗浄の際は、生理食塩液をゆっくり押し込むようにしてください。生理食塩液を急激に押し込むと、穿刺部コネクタに内蔵したスリット弁が開いたままとなり、薬液投与と開始前までに薬液が穿刺部内を拡散し、皮下に流入するおそれがあります。
- 生理食塩液による洗浄時に強い抵抗を感じた場合には、新しい本体と穿刺部に交換してください。皮下組織内にてカテーテルが折れ曲がるなど、正しくカテーテルが留置できていない可能性があります。
- シリンジの押し子を引いた陰圧確認は行わないでください。カテーテル内が閉塞し、薬液が投与されないおそれがあります。

# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

## 本体の電源起動及び本体の装着

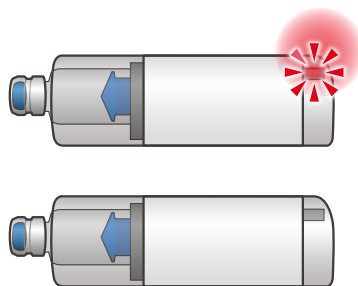


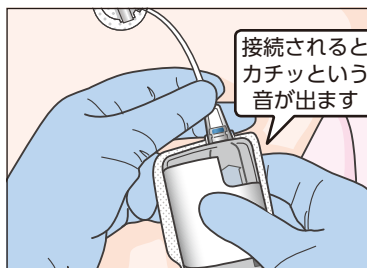
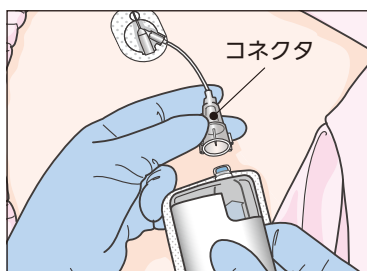
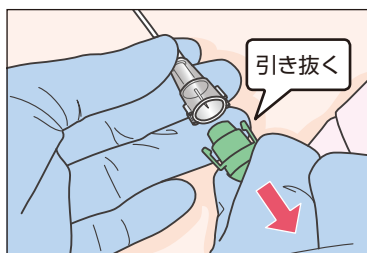
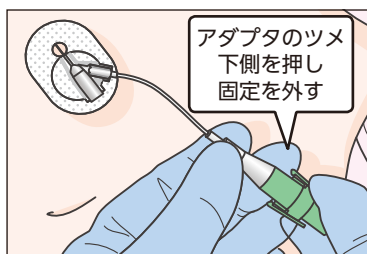
① 本体裏面の電源ボタンを**1秒以上長押しして、本体を起動し、起動時刻を確認する。**

- 本体の表示ランプがオレンジに点滅し、その後緑色に点灯することを確認してください。

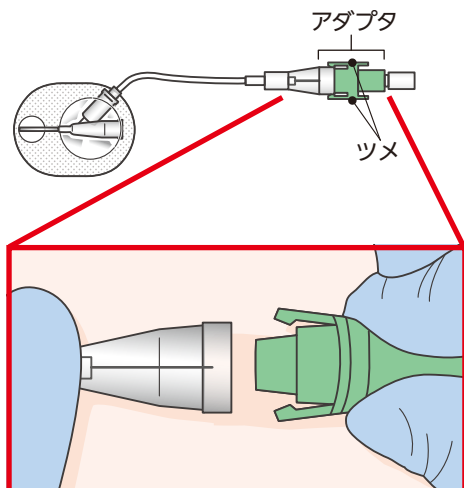
### 一般的な注意

- 表示ランプが赤色に点滅している場合や消灯したままの場合は使用しないでください。





## ② 穿刺部のコネクタから生理食塩液入りのシリンジを緑色のアダプタごと取り外す。



## ③ 本体の接続部を穿刺部のコネクタへまっすぐ押し込み接続する。

### 絶対に行ってはいけないこと

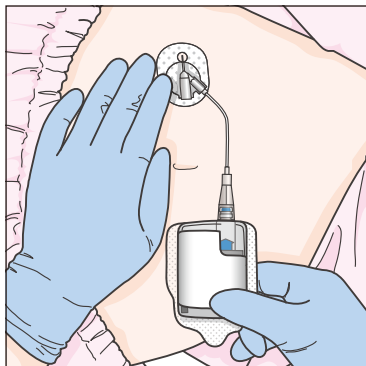
- 本体と穿刺部は専用接続となっています。ほかの医療機器とは接続しないでください。

### 一般的な注意

- 接続後は外せません。
- コネクタと接続部が確実に接続されていることを確認してください。

# 使用方法 自動投与デバイスの装着(医療機)

## 本体の電源起動及び本体の装着

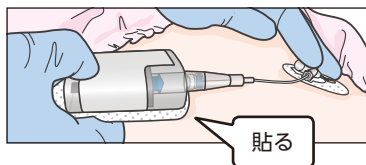
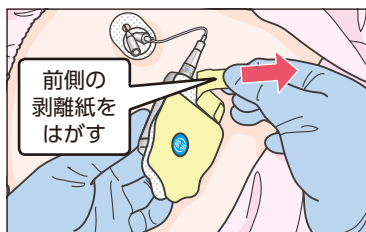
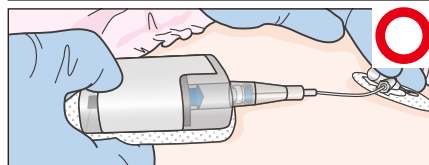
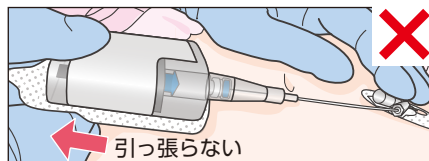


### ④ 本体を装着する位置を決める。

- 装着後にチューブに過度なたわみ、ねじれ、折れ曲がりが生じないように貼付位置を調整してください。

#### 一般的な注意

- 着衣やベルトなどが当たる部分、または運動による激しい動きや屈伸によって刺激を受ける場所、体側面や肋骨の上、凹凸のある部位などへのデバイスの装着は避けてください。貼付テープのはがれによるデバイス脱落の可能性があります。
- 穿刺部のチューブを過度に引っ張った状態で本体を装着しないでください。

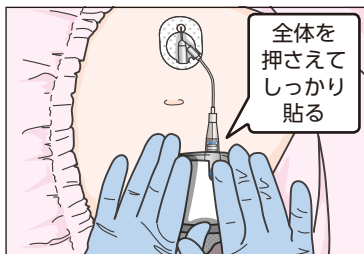
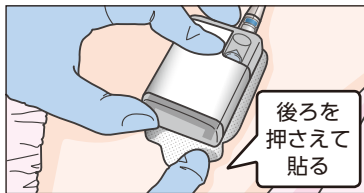
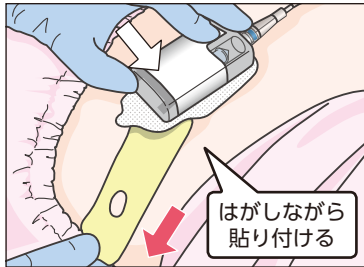
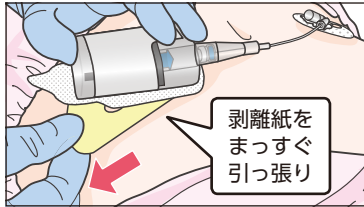


### ⑤ 前側の剥離紙をはがし腹部に貼り付ける。

#### 一般的な注意

- 装着時に衣類が挟まっていないことを確認し、貼付テープにしわが寄らないようにしっかり装着してください。

※本体は、へそを跨いで横向きに設置してください。

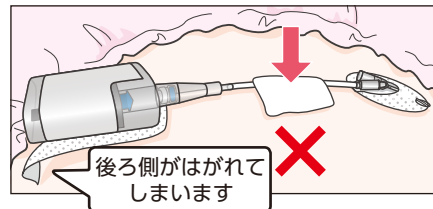


## ⑥ 後ろ側の剥離紙をまっすぐ引きながら、本体を貼り付ける。

- 本体の周囲の貼付テープに浮き、しわが入らないようしっかり貼り付けてください。

### 一般的な注意

- 貼付時に衣類が挟まっていないことを確認し、貼付テープにしわが寄らないようしっかり貼付してください。
- 貼付テープの粘着力が弱くはがれた場合は、そのまま貼り直さず新しいデバイスに交換するか、適切な方法で固定してください。
- 皮膚を強く引っ張った状態で貼付しないようご注意ください。
- 穿刺部がはがれたりカテーテルが抜けた場合や、チューブに過度なたわみやねじれ、折れ曲がりがある場合は新しいデバイスと交換してください。
- 本品をドレッシング材で被覆されたり、サージカルテープで固定される場合には、チューブや本体に偏って過度なテンションがかからないよう注意してください。



- 表示ランプが赤色に点滅している場合や消灯している場合は、新しい本体に交換してください。

## ⑦ 本体の起動時刻を患者さん用リーフレットに記録し、返却用袋とともに患者さんへ渡す。

- 本体を起動した約27時間後に薬液が自動投与されます。

ジーラスタ®皮下注3.6mg  
ポドリーフレット

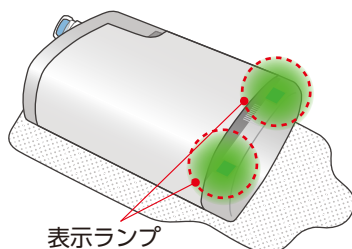
デバイス投与日時 月 日 年 時 分  
投与開始予定日時 (投与開始時刻は必ず確認) 月 日 年 時 分

# 使用方法 装着後のデバイスの表示

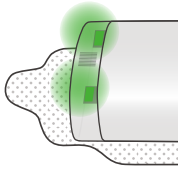

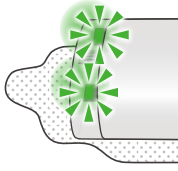
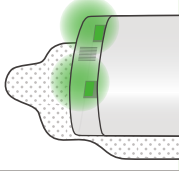
## 表示ランプとデバイスの状態

からだに装着されたデバイスは、約27時間後に自動的に薬液の投与を開始します（投与時間は約24分）。

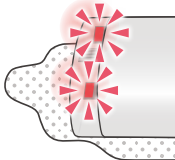
デバイスの表示ランプを確認し、正常な状態か確認してください。



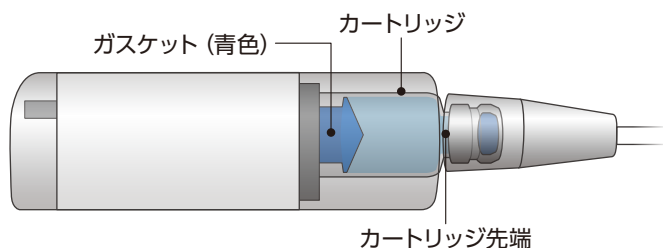
- 表示ランプが**緑色**の場合  
デバイスは正常な状態です。

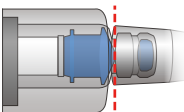
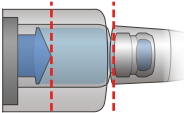
表示ランプ		状態
	点灯	待機中① (電源を入れてから約20分間)
	遅い点滅 (3秒毎に1回点滅)	待機中② (待機中①から投与開始まで)
	早い点滅 (1秒毎に2回点滅)	投与中 (約24分間)
	点灯	投与完了 (投与完了から約6時間)

- 表示ランプが**赤色**の場合  
トラブルが発生しています。

表示ランプ	状態
 <p>早い点滅 (2秒毎に2回点滅)</p>	<p>トラブル発生 医療機関へ要連絡</p>

- 表示ランプが消灯している場合  
ガスケットの位置を確認してください。



ガスケット	状態
 <p>カートリッジ先端まで ガスケットが進んで いる</p>	<p>正常に終了しています。</p>
 <p>カートリッジ先端と ガスケットの間に すき間がある</p>	<p>故障 医療機関へ要連絡</p>

# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

使用にあたり、必ず患者さんに指導してください。

## 患者さんに対する指導事項

### 絶対に行ってはいけないこと

#### 待機時（ボディーポッド装着時）

- デバイスの装着後、薬液投与開始前に装着部位の違和感が生じたり、本体や穿刺部が外れたりした場合は、自ら装着部位の貼り替えや再装着は行わず、速やかに医療機関に連絡するように指導してください。

#### 返却時

- デバイスを分解したり、改造したりしないよう指導してください。

## 一般的な注意

### 全般事項

#### <使用環境>

- 極端な高温・低温環境で使用すると、デバイスが破損したり薬液が劣化又は変性して安全性及び有効性に影響が出るおそれがあります。以下の点に注意するよう指導してください。
  - ◆ 外気温5～40℃の環境で使用するよう指導してください。[温度範囲外では正しく送液できない可能性があります。]
  - ◆ 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないよう指導してください。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化を生じ、デバイスが有する機能や性能が得られない可能性があります。]
  - ◆ 薬液を凍らせないよう指導してください。低温環境で使用する場合は、本体を暖かい衣服で覆うよう指導してください。
- 本体の故障が発生した場合、本体の温度が上昇することがあります。熱傷のおそれがあるため、本体の温度に異常を感じた時はデバイスを取り外すよう指導してください。[外気温40℃の環境下では、本体の最高温度が42℃となる可能性があります。]
- デバイスに意図的に蒸気を当てたり熱を加えたりしないよう指導してください。[高温・多湿の環境ではデバイスが破損したり、薬液が劣化又は変性するおそれがあります。]



# イス取り外し(患者さん)

## 一般的な注意

- 高圧酸素療法室や酸素テント内など、高濃度酸素下では使用しないよう指導してください。[発火のおそれがあります。]
- 振動、塵埃、噴霧、可燃性ガス、腐食性ガスなどが発生する場所で使用しないよう指導してください。[デバイスが有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となります。]
- 本体に液体がかかった場合又は汚れが付着した場合は、乾いた柔らかい布などで付着物をよく拭き取るよう指導してください。水洗いや、シンナーなどの有機溶剤は使用しないよう指導してください。[破損、故障、脱落するおそれがあります。]
- 飛行機内や登山など、本体に気圧変化がかかる環境下で使用しないよう指導してください。

## <防水>

- 本体は、防滴仕様 (IPX2) を備えていますが、入浴する、シャワーを当てる、水洗いするなど直接水をかけないよう指導してください。

## <デバイス装着後の使用中又は使用後に以下事象が確認された場合には、医療機関に連絡するよう指導してください。>

- 配布物に不足がある場合は、医療機関に連絡するよう指導してください。  
〈配布物〉・返却用袋 ・患者さん用リーフレット
- 重篤なアレルギー反応が起こることがあります。じんま疹、息苦しさ、めまい等のアレルギー症状や、かゆみや倦怠感等の体調の懸念が生じた場合は、デバイスを取り外して、直ちに医療機関を受診するよう指導してください。
- 装着部位やデバイスの周囲に耐えられない痛みや不快感がある場合は、直ちに医療機関に連絡するよう指導してください。
- 使用中に表示ランプが緑色に点滅していない場合や赤色に点滅している場合、薬液投与終了予定時刻よりも前に消灯している場合は必要量が投与できていない可能性がありますので、医療機関に連絡するよう指導してください。

# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

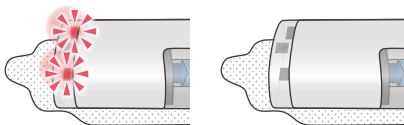
使用にあたり、必ず患者さんに指導してください。

## 患者さんに対する指導事項

### 一般的な注意

#### 待機時（ボディーポッド装着時）

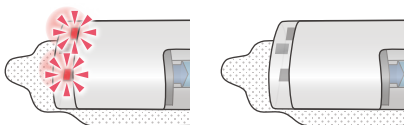
- 表示ランプが赤色に点滅している場合や消灯している場合は、デバイスに異常が発生していますので医療機関に連絡するよう指導してください。



- 運動や屈伸によってデバイスが大きく移動したり、引っ張られたりしないよう指導してください。
- 入浴、シャワー、サウナなどは避けるよう指導してください。また、水などの液体で濡らさないよう指導してください。
- クリーム、ローション、オイルなどの外用剤を塗る際は、デバイスの装着部位の近くは避けて塗るよう指導してください。
- ローション、日焼け止め、虫除けなどを使用した後は、デバイスに触れる前に良く手を洗うよう指導してください。

#### 薬液投与開始時

- 投与が完了するまでデバイスを腹部からはがさないよう指導してください。
- デバイスを起動してから約27時間後に薬液の投与が開始されることから、起動後26～29時間の間はデバイスの稼働状態の確認を妨げるような運動や運転などは避け、安静に過ごすよう指導してください。
- 表示ランプが赤色に点滅している場合やガスケットが途中で停止し表示ランプが消灯している場合は、デバイスが正常に作動していない可能性がありますので医療機関に連絡するよう指導してください。



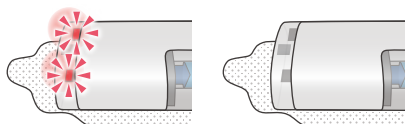
# イス取り外し(患者さん)

## 一般的な注意

- 投与中に薬液が漏れた場合は、必要量が投与できていない可能性がありますので、医療機関まで連絡するよう指導してください。
- 投与開始予定時間を1時間過ぎても投与が開始されない場合は、デバイスが正常に作動していない可能性がありますので、医療機関まで連絡するよう指導してください。

## 薬液投与終了時

- 薬液が漏れていた場合は、必要量が投与できていない可能性がありますので、医療機関まで連絡するよう指導してください。
  - ◆ 投与終了後に、本体の周辺が明らかに濡れている場合。
  - ◆ 本体に破損やヒビが見られる場合。
- 表示ランプが赤色に点滅している場合やガasketが途中で停止し表示ランプが消灯している場合は、必要量が投与できていない可能性がありますので医療機関に連絡するよう指導してください。



# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

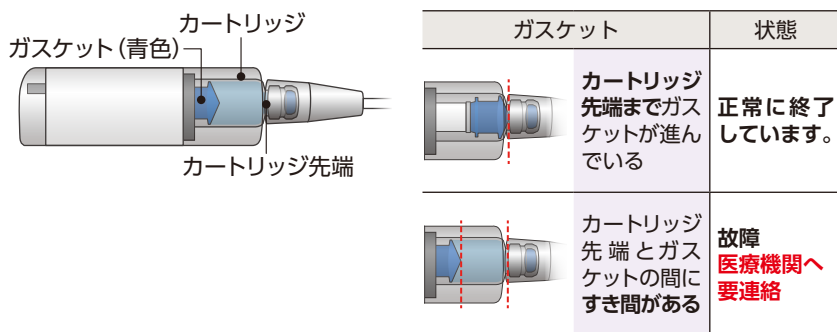
使用にあたり、必ず患者さんに指導してください。

## 患者さんに対する指導事項

### 一般的な注意

#### デバイスの取り外し時

- デバイスの取り外し時、貼付テープは少しずつはがすよう指導してください。(貼付テープを勢いよくはがすと皮膚障害を引き起こすおそれがあります。)
- 薬液自動投与終了が確認できていれば、表示ランプ消灯前にデバイスを取り外しても問題ないことを指導してください。
- 出血が認められた場合は、アルコール綿または清潔なガーゼか布で出血部位を3～5分ほど圧迫し、止血するよう指導してください。出血が止まらない場合は、医療機関に連絡するよう指導してください。
- 薬液確認窓から確認した場合に、薬液が残っている、あるいは、ガスケットが途中で止まっている場合は、必要量が投与できていない可能性がありますので医療機関まで連絡するよう指導してください。



- 薬液投与終了後の1時間は、運転・負荷のかかる運動は避けるよう指導してください。

#### 返却時

- 使用済みのデバイスは、医療従事者の指示に従って次回通院時に持参するよう指導してください。
- 返却用袋は次回通院時まで、こどもの手の届かないところに保管するよう指導してください。

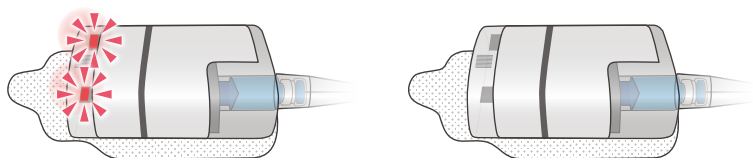
# イス取り外し(患者さん)

## トラブル時の対処方法

### ▶表示ランプが赤色に点滅／表示ランプが点滅・点灯しない

#### ●現象

- ・表示ランプが赤色に点滅している。
- ・デバイスの電源起動から投与完了までの間に表示ランプが点滅、点灯しておらず、ガスケットも途中で止まっている。



### ▶投与中もしくは投与終了後に薬液が漏れていた

#### ●現象

- ・投与中に、デバイスまたは穿刺部位から薬液が漏れている。
- ・投与終了後、表示ランプは緑色に点灯しているが、デバイスから液滴が漏れていた。

### ▶カテーテルが抜けていた／チューブが外れていた

#### ●現象

- ・待機中／投与中／投与終了後に、カテーテルが抜けていた、あるいはチューブが外れていた。

### ▶貼付テープがはがれていた／デバイスが体から外れていた

#### ●現象

- ・待機中／投与中／投与終了後に、貼付テープがはがれていた、あるいはデバイスが外れていた。

## 対処法

薬液が投与できていない可能性がありますので、医療機関に連絡するよう指導してください。

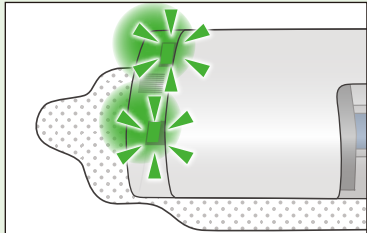
デバイスの取り外しは医療機関からの指示のもと、注意して行うよう指導してください。

# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

## 投与中のデバイスの状態

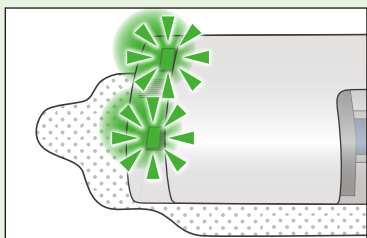
装着後約27時間(待機中)

緑色ランプが3秒毎に1回点滅



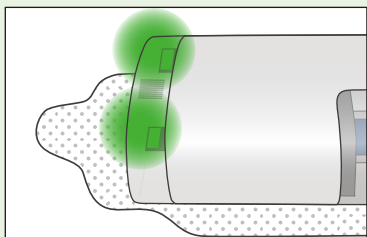
投与中(約24分間)

緑色ランプが1秒毎に2回点滅  
(早い点滅)



投与完了(投与完了から約6時間)

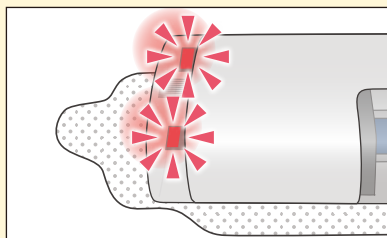
緑色ランプが点灯



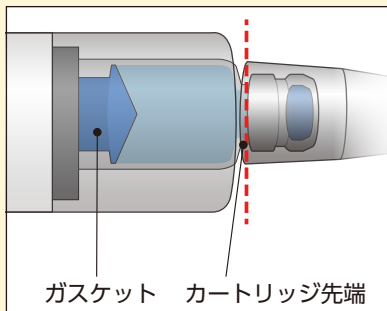
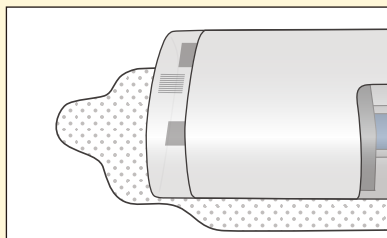
医療機関に連絡するよう  
指導してください

次の場合は、デバイスにトラブルが発生していますので、医療機関に連絡するよう指導してください。

赤色に点滅(2秒毎に2回点滅)



表示ランプが消灯し、ガスケット  
がカートリッジ先端まで進んで  
いない。

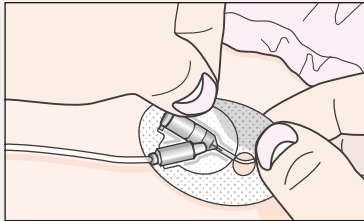
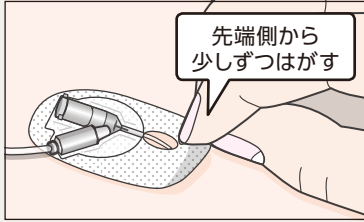


# イス取り外し(患者さん)

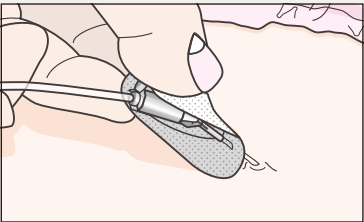
## クイックガイド

### からだから取り外す

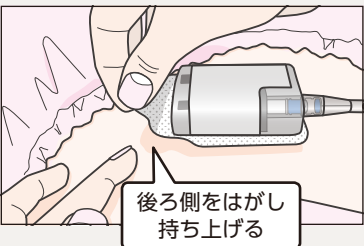
穿刺部の貼付テープをはがす



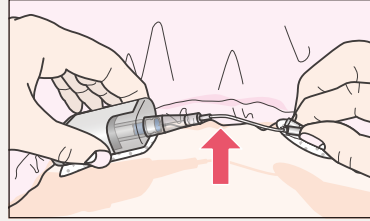
カテーテルを引き抜く



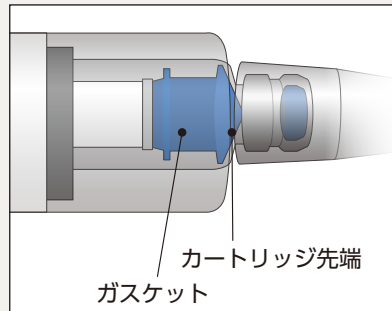
本体の貼付テープをはがす



### デバイスを腹部から取り外す

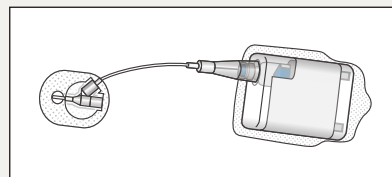


ガスケットがカートリッジ先端まで移動していることを確認する



### 返却

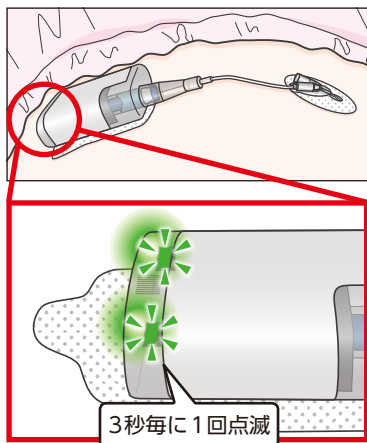
デバイスを返却用袋に入れ、次回通院時に返却する。



# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

## ステップ1:待機時 (ボディーポッド装着時)

① 医療機関からの配布物を確認する。

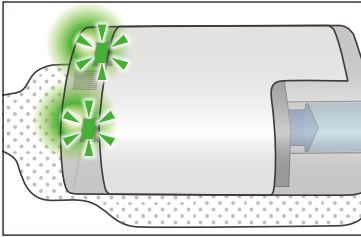


② 薬液の投与が開始されるまで本体の表示ランプが緑色に点滅していることを確認する。



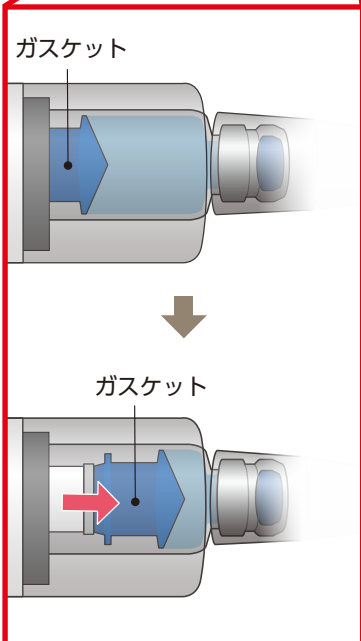
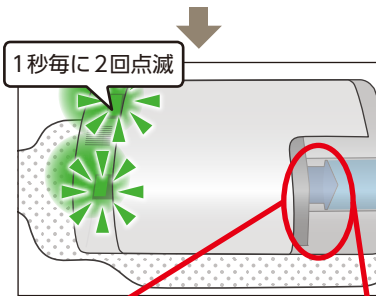
# イス取り外し(患者さん)

## ステップ2: 薬液投与開始



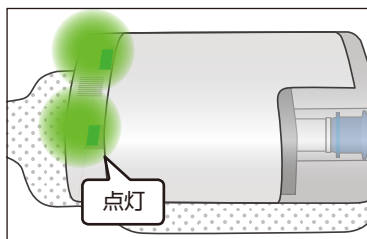
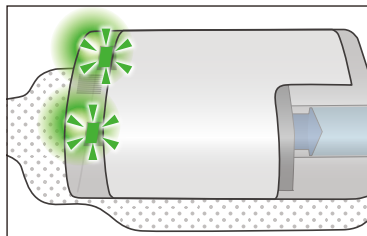
医療機関で本体に電源を入れてから約27時間後、表示ランプが緑色の早い点滅(1秒毎に2回)に切り替わり、薬液の投与が開始されることを確認する。

- 投与が開始されると、少しずつガスケットが矢印➡の方向に進みます。
- 投与時間は約24分です。



# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

## ステップ3: 薬液投与終了



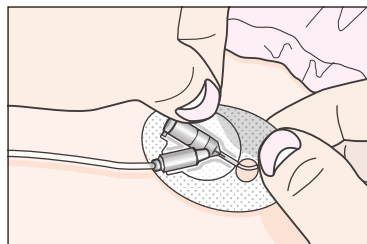
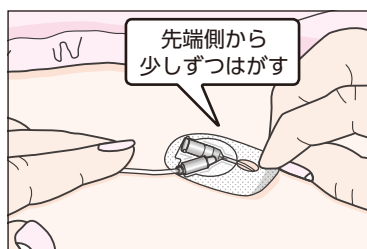
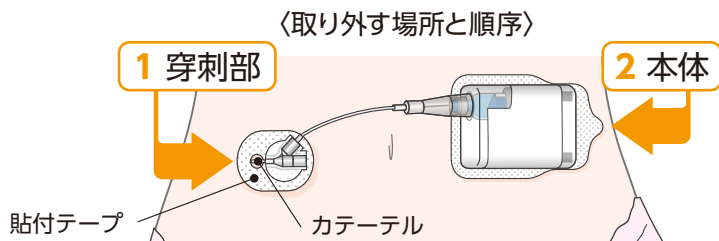
本体の表示ランプが緑色に点灯していることを確認する。

- 医療機関で電源を入れた時刻より約27時間後から、30分毎に表示ランプが緑色の点灯に変わったかを確認するよう指導してください。
- 緑色に点灯した表示ランプは、投与終了後約6時間で消灯します。

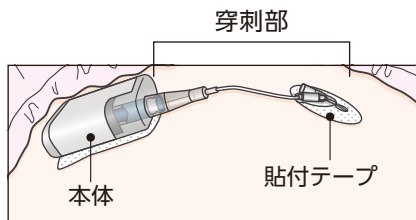
# イス取り外し(患者さん)

## ステップ4: デバイスの取り外し

デバイスの取り外し時、貼付テープは少しずつはがすよう指導してください。

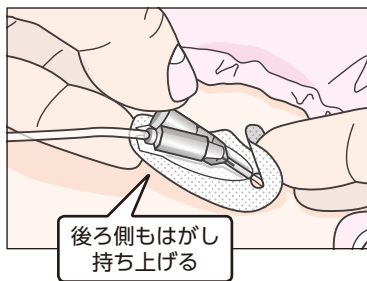


- ① 手をよく洗い、穿刺部の先端側から貼付テープをていねいにはがす。

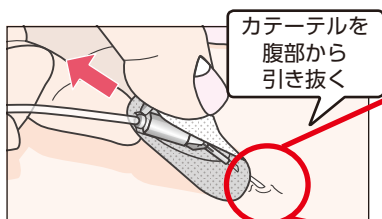


# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

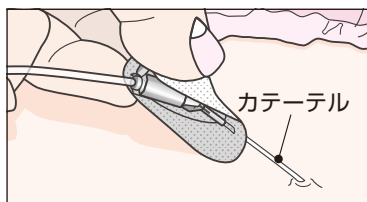
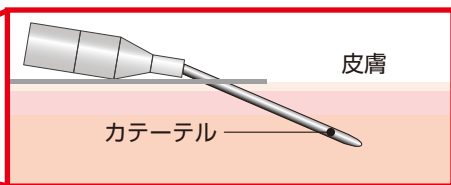
## ステップ4: デバイスの取り外し



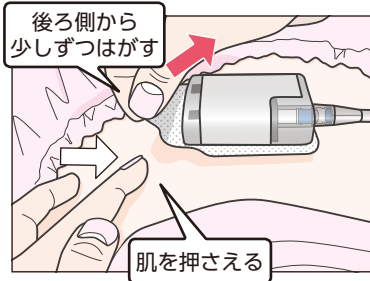
② 後ろ側の貼付テープもはがす。



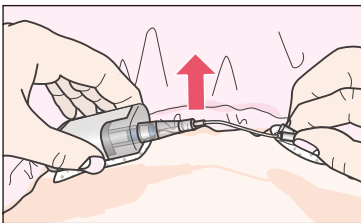
③ カテーテルを腹部から引き抜く。



# イス取り外し(患者さん)

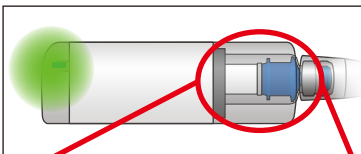


- ④ 本体の後ろ側から貼付テープをていねいにはがす。

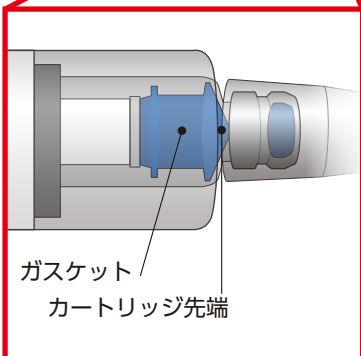


デバイスを腹部から取り外した状態

- ⑤ デバイスを腹部から取り外す。



- ⑥ ガasketがカートリッジ先端まで移動していることを確認する。



# 使用方法 薬液自動投与と投与終了後のデバ

## ステップ5:返却

取り外し後のデバイスは返却用袋に入れて、次回通院時までこどもの手の届かないところで保管する。

# イス取り外し(患者さん)

---

自動投与デバイスの名称

自動投与デバイスの注意事項

使用方法

